

1. 総括



1. 消防局管内の概況

本局は、鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し、北部は国立公園である風光明媚な霧島連山を有し、南部は豊かで広大な平野部が波静かな錦江湾に接し、湾に浮かぶ雄大な桜島を望むところにあります。また、霧島山系から裾野、平野部を経て錦江湾まで流れる清く豊かな天降川、その流域に広がる豊かな田園、そして山麓から平野部まで温泉群等を有しており、海、山、川、田園、温泉など多彩で豊かな地域です。総面積約 603 平方 km、人口約 12 万 6 千人の、「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」として位置づけられています。

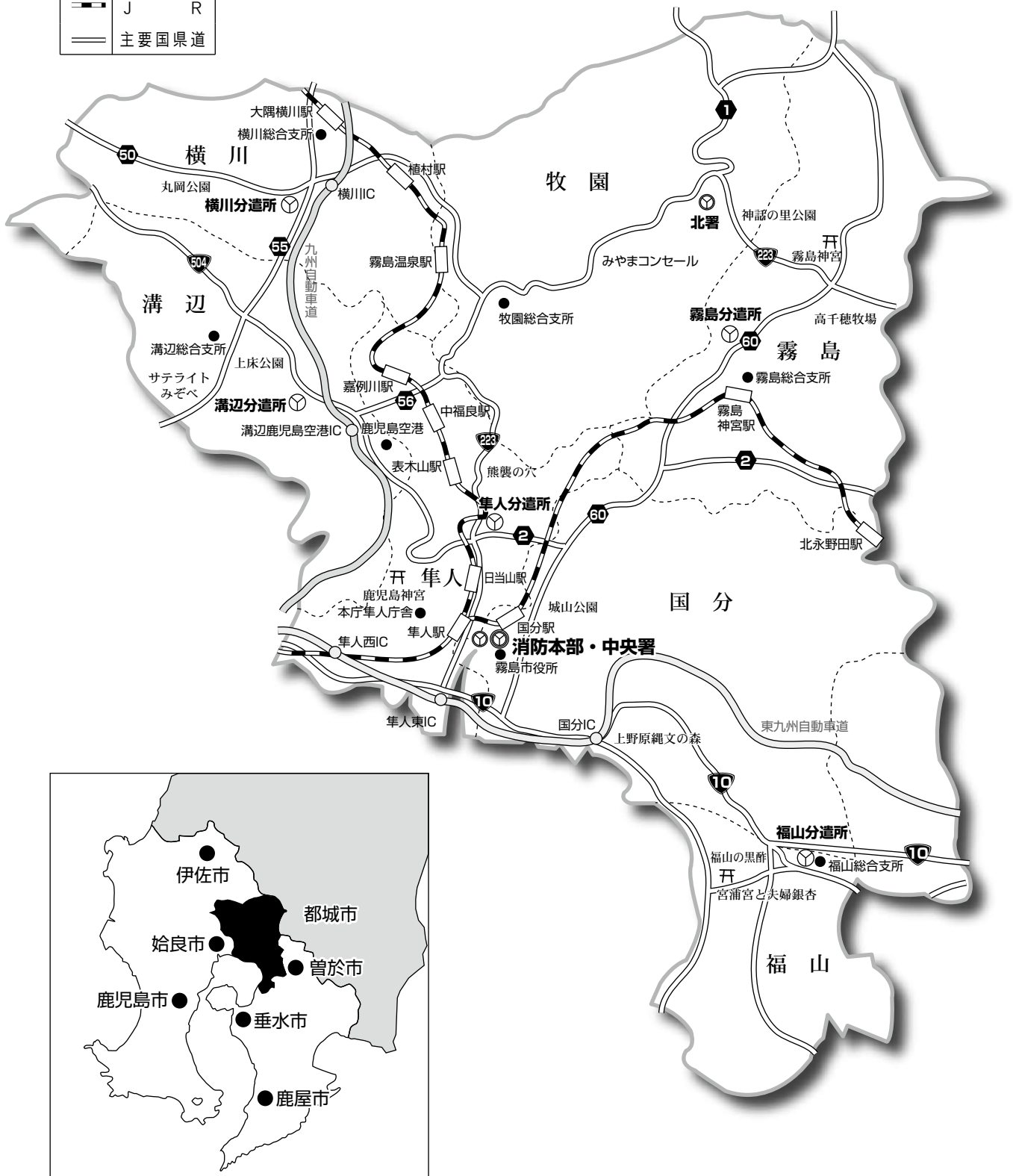
構成概要

(平成31年3月1日)

地区別 \ 区分	面積 (km ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)
計	603.18	60,611	125,771
国分	122.51	27,668	59,247
溝辺	63.50	3,717	7,987
横川	69.92	2,111	4,028
牧園	129.66	3,645	6,550
霧島	82.54	2,435	4,560
隼人	66.49	18,410	38,506
福山	68.53	2,625	4,893

2. 消防局管内位置図

凡 例	
	消防本部
	消防署
	分遣所
	管内境
	地区境
	J R
	主要国県道



3. 霧島市消防局のあゆみ

- 昭和32年 6月 1日 国分市消防本部（署）を設置，署員消防長以下16名（内消防長，助役兼務），庁舎は消防団本部庁舎を仮庁舎とし，消防ポンプ自動車（いすゞ1957年型A1級）1台を配置する。
- 昭和34年 9月 1日 専任消防長に肥後直之氏が就任する。
- 昭和36年 4月 1日 消防長に今村清氏が就任する。
- 昭和40年 1月 1日 専任消防署長を置く。
- 昭和40年 4月 1日 消防吏員5名を採用，合計21名となる。
- 昭和40年10月28日 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ1965年型A級3t積）を購入配置する。
- 昭和40年12月21日 消防無線（SSB，3W）を購入，基地局を署に，移動局を消防自動車に配置する。
- 昭和42年 7月 5日 消防長・今村清氏退職。
- 昭和42年 7月 5日 消防長・加治木幸雄氏就任する。
- 昭和42年12月14日 救急車（日産セドリック1967年型B級）を購入消防署に配置，12月26日消防無線（SSB，3W）移動局を搭載する。
- 昭和43年 1月 7日 救急業務を開始する。
- 昭和43年 7月19日 日本損害保険協会より消防車贈呈を受け，火災保険号「国分」と命名する。既存の消防ポンプ自動車を消防団敷根部へ配置替する。
- 昭和44年 4月 1日 国分市・隼人町により，消防一部事務組合を設立，国分市・隼人町消防組合となる。
- 昭和44年 4月 1日 初代組合管理者に国分市長，林昌治氏が就任。
- 昭和44年 5月 1日 組合消防長に中村清氏就任，同時に消防吏員14名，その他の職員2名を増員37名となる。また，隼人分遣所（隼人町役場内仮庁舎）を開設，署員12名，消防ポンプ自動車1台を配置する。
- 昭和44年11月14日 隼人分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ1969年型A2級1.5t積）を購入配置，既存消防ポンプ自動車は隼人町消防団嘉例川部に配置する。
- 昭和45年 4月15日 隼人分遣所庁舎落成，4月27日移転する。
- 昭和45年 5月29日 消防本部（署）新庁舎落成，6月17日移転する。
- 昭和45年12月 7日 消防吏員5名を増員，合計42名となる。
- 昭和45年12月23日 救急車（日産エコー1970年型）を購入，消防本部（署）に配置，既存救急車を隼人分遣所に配置，救急業務を開始する。
- 昭和46年 2月 1日 鹿児島地方気象台の委託により，農業気象観測を開始する。
- 昭和46年 3月 2日 消防吏員2名を採用，合計44名となる。
- 昭和46年 4月 1日 組合に霧島町が加入，国分市外2町消防組合となる。
- 昭和46年 4月15日 国分・隼人ライオンズクラブより，アクアラングー式，テント3張の寄贈を受ける。
- 昭和46年10月 5日 霧島分遣所開設のため11名を採用，10月20日2名，12月6日1名を追加採用，合計58名となる。
- 昭和46年12月 4日 霧島分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（日産A2級1971年型2t積）を購入する。

昭和47年 4月 1日 霧島分遣所新庁舎落成，消防吏員11名を配置する。

昭和47年 9月20日 消防吏員2名を採用，合計60名となる。

昭和47年10月 1日 組合に牧園町が加入，国分市外3町消防組合となる。

昭和47年10月 2日 消防吏員12名を採用，合計72名となる。

昭和47年12月 4日 本署に水槽付消防ポンプ自動車（いすゞディーゼル2t積）を購入，配置する。

昭和48年 2月16日 牧園分遣所に普通ポンプ自動車を購入，配置する。

昭和48年 3月 2日 消防庁長官より，竿頭綬を国分市消防団と合同受賞。

昭和48年 4月 1日 組合に福山町が加入，国分市外4町消防組合となる。

昭和48年 4月 3日 消防吏員21名を採用。

昭和48年 4月10日 牧園分遣所庁舎落成，消防吏員11名を配置する。

昭和48年 4月11日 消防長・中村清氏退職。

昭和48年 4月11日 消防長・谷口純男氏就任する。

昭和48年 8月 3日 消防長・谷口純男氏退職。

昭和48年 8月 3日 消防長・福留正男氏就任する。

昭和48年 8月 4日 消防吏員2名を採用。

昭和48年 8月17日 福山分遣所に救急車を購入する。

昭和48年 8月31日 福山分遣所に普通ポンプ自動車を購入する。

昭和48年 9月 1日 機構改革を行い，本部に庶務課，警防課を設置するとともに中央署，北署の2署制となる。

昭和48年 9月 3日 福山分遣所新庁舎落成，消防吏員11名を配置，業務を開始する。

昭和48年 9月11日 北消防署に屈折梯子付消防ポンプ自動車を購入，配置する。

昭和48年 9月18日 鹿県共済農業協同組合連合会より救急車贈呈を受け，北消防署に配置する。

昭和48年11月10日 消防吏員3名を採用。

昭和49年 3月10日 警察との専用電話を設ける。

昭和49年 3月18日 北消防署及び福山分遣所に無線基地局を設け，山間地等の難聴解消を図る。

昭和49年 4月 1日 国分市外4町消防組合から国分地区消防組合と名称を変更する。

昭和49年 4月15日 消防吏員10名を採用。

昭和49年 5月15日 消防吏員8名を採用。

昭和49年 7月 1日 始良郡西部消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。

昭和49年10月 1日 消防長は消防監となる。

昭和49年10月 1日 北消防署に予防係を配置，北消防署管内の災害，火災予防を強化する。

昭和49年11月 1日 消防吏員5名を採用。

昭和50年 2月19日 日本損害保険協会より救急車贈呈を受け，霧島分遣所に配置する。

昭和50年 4月 1日 消防吏員2名を採用，合計117名となる。

昭和50年11月14日 局線集中応答装置及び通話録音装置を購入，中央署に配置する。

昭和51年 4月 3日 日本損害保険協会より救急車の贈呈を受け，隼人分遣所に配置する。

昭和51年10月24日 国分・隼人ライオンズクラブより広報車（トヨタハイエース15名乗り）の贈呈を受け，中央署に配置する。

昭和52年 4月 1日 農業気象観測廃止。

昭和52年 5月27日 国分地区第1少年消防クラブ発足（向花小）

昭和52年 8月20日 ポンプ自動車（トヨタランドクルーザ1977年型A2級BD-1）を購入，中央署に配置する。

昭和52年10月20日 消防本部訓練用地（358㎡）購入。

昭和53年10月23日 初代・林昌治管理者の勇退に伴い，第二代管理者に国分市長・谷口義一氏が就任。

昭和53年11月24日 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ-D型）購入，中央署に配置する。

昭和54年 4月 1日 消防吏員2名を採用。

昭和54年 7月 1日 消防吏員2名を採用。

昭和54年10月 5日 日本損害保険協会より救急車1台（2B型）の寄贈を受け，中央署に配置する。

昭和54年10月13日 日本防火協会より広報車1台（婦人防火協力会）の寄贈を受け，本部に配置する。

昭和54年12月15日 本部庁舎の増改築を行う。（238.39㎡）

昭和55年 4月 1日 消防吏員5名を採用。

昭和55年 8月11日 北消防署に気象観測機器を購入設置する。

昭和55年10月 1日 大口市外三町消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。

昭和55年11月26日 株式会社タイヨーより救急車の贈呈を受け，中央消防署に配置する。

昭和55年12月22日 中央消防署に屈折梯子付消防ポンプ自動車を購入，配置する。

昭和56年 5月21日 福山分遣所に気象観測機器を購入配置する。

昭和56年 9月25日 日本消防協会より救急車の寄贈を受け，福山分遣所に配置する。

昭和56年11月22日 国分・隼人ライオンズクラブより指令車1台の寄贈を受け，消防本部に配置する。

昭和56年12月 1日 消防長・福留正男氏退職。

昭和56年12月 1日 消防長・川東文雄氏就任する。

昭和56年12月25日 指揮連絡車1台を購入，消防本部庶務課に配置する。

昭和57年 6月27日 中央消防署に気象観測機器を購入設置する。

昭和57年11月 4日 隼人分遣所水槽付消防ポンプ自動車A2級（Ⅰ-A型）更新。

昭和58年 4月 1日 消防吏員4名を採用。

昭和58年12月22日 指揮連絡車1台を購入，消防本部警防課に配置する。

昭和59年 1月 1日 垂水市と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。

昭和59年 1月10日 消防長・川東文雄氏退職。（国分市総務課参事へ）

昭和59年 1月10日 消防長・岡元光則氏就任する。

昭和59年 7月17日 国分地区幼少年消防クラブ連絡協議会発足。

昭和59年 8月28日 日本消防協会より軽可搬ポンプ2台の寄贈を受け，国分市・隼人町に配置する。

昭和59年11月14日 霧島分遣所水槽付消防ポンプ自動車A2級（Ⅰ-A型）更新。

昭和60年 8月23日 日本消防協会より救急車と軽可搬ポンプ4台の寄贈を受け，救急車を霧島分遣所へ配置し，軽可搬ポンプは国分・隼人の婦人防火クラブに配置する。

昭和60年 9月 1日 日本防火協会会長・笹川良一氏を迎え，幼少年と婦人防火のつどいを開催する。

昭和60年12月9日 北消防署消防ポンプ自動車A2級（CD-I型）更新。

昭和61年4月1日 消防吏員3名を採用。

昭和61年5月25日 北消防署へ国分ロータリークラブより10周年記念事業の一環としてホンダ61年式（1200cc）指令車寄贈。

昭和61年10月1日 北消防署庁舎改修。

昭和61年11月25日 福山分遣所消防ポンプ自動車A2級（CD-I型）更新。

昭和62年3月31日 消防吏員1名を採用。

昭和62年8月19日 米丸功氏より救助訓練塔の寄贈を受け、中央署に設置する。

昭和62年9月9日 コーアガス鹿児島より国分支店開設記念として救急車1台の寄贈を受け、中央署に配置する。

昭和62年10月1日 大隅曾於地区消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。

昭和62年12月25日 救助工作車II型を購入、中央署に配置する。

昭和63年1月10日 消防長・岡元光則氏退職。（国分市総務課参事へ）

昭和63年1月10日 消防長・西元三一氏就任する。

昭和63年3月16日 日本損害保険協会より救急車2B型1台の寄贈を受け、北消防署に配置する。

昭和63年4月1日 宮崎県都城北諸県広域市町村圏事務組合消防本部と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。

昭和63年5月10日 （財）全国消防協会より消防機器の改良開発により会長賞受賞。

昭和63年12月30日 北消防署の屈折梯子付消防ポンプ自動車老朽の為、30m級はしご車と買替え配置する。

平成元年3月31日 消防吏員9名退職、内2名は定年退職、7名は高齢化対策により管内市町役場へ転出。

平成元年4月1日 消防吏員10名を採用（欠員採用）、実人員119名。

平成元年4月19日 全国消防協会主催の62年度消防機器開発コンクールで急流「せき止め器」が秀に選ばれ科学技術庁長官賞、受賞。

平成元年5月30日 組合消防発足20周年に当たり、記念式典を行う。

平成元年9月8日 屈折梯子付消防ポンプ自動車（55年購入、中央消防署）の第1回オーバーホールを実施。

平成元年12月15日 消防長・西元三一氏退職。（国分市総務課へ）

平成元年12月15日 消防長・西村隆吉氏が就任。

平成元年12月27日 中央消防署の消防ポンプ自動車（CD-I型）更新。

平成2年2月1日 日本自動車工業会より救急車2B型1台の寄贈を受け、隼人分遣所へ配置。

平成2年4月1日 消防吏員9名が高齢化対策により退職、管内市町役場へ、新たに消防吏員7名を採用（欠員補充）実人員117名。

平成2年6月30日 マイクロバス26名乗り（三菱）を購入、消防本部に配置する。

平成2年7月22日 消防庁長官より表彰旗を国分市消防団と合同受賞（平成2年3月8日付）により受賞式典を行う。

平成2年10月31日 中央消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。

平成3年3月25日 国分調剤薬局寺脇康文氏より北消防署に訓練塔の寄贈を受ける。

平成3年4月1日 消防吏員9名が高齢化対策により退職、管内市町役場へ、新たに消

			防吏員12名を採用（欠員補充），実人員120名。
平成	3年	6月 1日	新たに消防吏員1名を採用，実人員121名。
平成	3年	9月23日	ホンダプリモ国分森田和哉氏より中央消防署査察車としてホンダ3年式（660cc）寄贈を受ける。
平成	3年	11月23日	消防本部へ国分・隼人ライオンズクラブ30周年記念事業の一環として，トヨタ3年式（1500cc）指令車の寄贈を受ける。
平成	3年	12月18日	広報車として消防本部にニッサン3年式10人乗り（3000cc）を購入配置する。
平成	4年	2月15日	水難救助用ボートを購入，中央消防署に配置する。
平成	4年	4月 1日	消防吏員4名を採用（欠員補充）実人員121名。
平成	4年	12月27日	福山分遣所救急車（2B型）を更新のため購入配置。
平成	5年	1月18日	消防本部指揮連絡車（トヨタクラウンワゴン）を更新のため購入配置。
平成	5年	2月27日	救急処置範囲拡大に伴い救急7点セットを購入，中央署へ配置。
平成	5年	3月 8日	職員定数条例を改正，定数を122名から138名とする。
平成	5年	11月 2日	住宅防火診断用パーソナルコンピュータ購入，消防本部へ配置。
平成	5年	12月 6日	指揮本部車（四輪駆動車）を更新。
平成	6年	1月 1日	消防長・西村隆吉氏退職。（国分市市民課へ）
平成	6年	1月 1日	消防長・古賀保氏就任する。
平成	6年	3月21日	救急モニター（救急7点セット）を購入，隼人分遣所へ配置。
平成	6年	4月 1日	消防吏員10名を採用（増員分6名，補充4名）する。実人員126名となる。
平成	6年	12月27日	長島企業グループ（代表 長島公佑氏）より2B型救急車（トヨタハイエース）の寄贈を受け，中央消防署へ配置。ジャングルパーク号と命名。
平成	6年	12月27日	本部査察車（トヨタカルディナ）を更新。
平成	7年	1月17日	隼人分遣所の救急車（2B型トヨタハイエース）を更新。
平成	7年	2月16日	隼人分遣所のタンク車（水-I-A）を更新。
平成	7年	3月 1日	救急モニター（救急7点セット）を購入，北消防署へ配置。
平成	7年	4月 1日	消防吏員7名を採用（増員分5名，補充2名）する。実人員132名となる。
平成	7年	8月24日	日本船舶振興会より査察車（日産ADバン）の寄贈を受け本部予防課へ配置する。
平成	7年	10月18日	中央消防署屈折梯子車（16m級）を38m級梯子付消防車に更新。
平成	8年	3月 1日	救急モニター（救急7点セット）を購入，霧島分遣所へ配置。
平成	8年	4月 1日	消防吏員6名採用（増員分）実人員138名。
平成	8年	5月23日	平成8年度鹿児島県総合防災訓練が，国分市海浜公園周辺で実施される。
平成	8年	7月18日	第25回九州地区消防救助技術指導会を当消防本部で開催のため準備を進めてきたが，当日台風6号のため中止となる。
平成	8年	11月26日	霧島分遣所の救急車（2B型トヨタハイエース）を更新。
平成	8年	12月10日	霧島分遣所のタンク車（水-I-A）を更新。
平成	9年	1月 1日	消防長・古賀保氏参事へ。
平成	9年	1月 1日	消防長・池田綱雄氏就任する。（国分市企画課より）
平成	9年	3月25日	救急モニター（救急7点セット）を購入，福山分遣所へ配置。
平成	9年	3月31日	古賀保氏（参事）定年退職。

平成 9年 4月28日 本部・中央署庁舎、避難地用地購入。(取得価格525,272千円)

平成 9年 8月26日 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央消防署へ配置「火災保険号」と命名。

平成 9年11月28日 北署ポンプ車(四輪駆動車)を更新。

平成10年 3月31日 消防吏員1名、定年退職。

平成10年 4月 1日 消防吏員2名を採用(欠員補充)し、合計実人員138名。

平成10年11月 5日 福山分遣所の消防ポンプ自動車(CD-I四輪駆動車)更新。

平成11年 3月31日 消防吏員1名、定年退職。

平成11年 3月31日 消防本部(署)新庁舎落成、4月27日移転する。

平成11年 4月 1日 機構改革を行い本部に予防課を新設するとともに、警防課に救急救助係及び通信指令室を設ける。

平成11年 4月27日 消防緊急通信指令システム(自治省消防庁II型)運用開始。

平成11年 5月24日 国分地区消防組合設立30周年ならびに庁舎落成記念式典を行う。

平成11年 9月 7日 財団法人日本消防協会より可搬消防ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。

平成11年10月13日 中央消防署の消防ポンプ自動車(CD-I)更新。

平成11年12月 9日 北消防署の指揮連絡車を更新する。

平成12年 3月 4日 東九州自動車道(国分IC~隼人東IC間)の開通に伴い救急・消防業務を開始する。

平成12年 4月 1日 消防長・池田綱雄氏退職。(国分市市民福祉部長へ)

平成12年 4月 1日 消防長・福永 洸氏就任する。

平成12年 6月26日 救急モニターを購入、中央消防署へ配置。

平成12年 9月20日 北消防署の梯子車(昭和63年購入)をオーバーホール(第1回目)

平成12年10月11日 福山分遣所の救急車(2B型トヨタ)を更新。

平成13年 3月31日 消防吏員2名定年退職。

平成13年 4月 1日 消防吏員4名を採用(欠員補充)し、合計実人員138名。

平成13年11月10日 国分・隼人ライオンズクラブ(結成40周年)より査察車(トヨタカルディナ)の寄贈を受け本部に配置。

平成13年11月29日 中央消防署の2B型救急車の更新に伴い、高規格救急車(トヨタハイメディック)及び資機材を購入し配置。

平成13年12月13日 隼人分遣所の救急車(平成7年購入2B型)を更新。

平成13年12月19日 中央消防署の救助工作車II型(昭和62年購入)を更新。

平成13年12月19日 消防吏員1名中途退職。(死亡)

平成14年 2月 1日 中央消防署高規格救急車の運用を開始する。

平成14年 3月 2日 東九州自動車道(国分IC~末吉・財部IC間)の開通に伴い、救急・消防業務を開始する。

平成14年 3月31日 消防吏員1名定年退職。

平成14年 4月 1日 消防吏員2名を採用(欠員補充)し合計実人員138名。

平成14年10月 9日 第二代・谷口義一管理者の勇退に伴い、第三代管理者に国分市長鶴丸明人氏が就任。

平成15年 2月12日 福山分遣所庁舎の増改築を行い落成。

平成15年 3月31日 消防吏員2名定年退職。

平成15年 3月31日 消防長・福永 洸氏退任。(国分市収入役へ)

平成15年 4月 1日 消防長・中馬達己氏就任する。(国分市市民福祉部長より)

平成15年 9月30日 エアーテントを購入。

平成15年11月27日 北消防署の救急車（平成7年購入）を2B型高規格対応に更新。

平成16年 3月15日 霧島分遣所の増改築を行い落成。

平成16年 3月31日 資機材搬送車を購入配備。

平成16年 3月31日 消防吏員1名定年退職。

平成16年 7月 9日 第33回九州地区消防救助技術指導会が、国分市海浜公園グラウンドで開催。

平成16年10月 1日 消防吏員2名を採用（欠員補充）し、実人員138名となる。

平成16年11月 2日 旧消防本部中央消防署を解体。

平成16年12月13日 霧島分遣所の救急車（平成8年購入）を2B型高規格対応に更新。

平成16年12月20日 中央消防署梯子車（平成7年購入）をオーバーホール（第1回目）。

平成17年 3月31日 消防吏員2名定年退職。

平成17年 4月 1日 消防吏員2名を採用（欠員補充）し、実人員138名となる。

平成17年10月 1日 消防吏員3名を採用し、実人員141名となる。

平成17年11月 7日 1市6町による行政合併に伴い国分地区消防組合を解散。新たに旧溝辺町、旧横川町が加わるかたちとなり、単独消防として名称が霧島市消防局となる。旧溝辺町14名、旧横川町9名、合計23名と市職員3名を加え、条例定数176名に対し実人員167名となる。同時に機構改革を行い、警防課の通信指令室を情報司令課に昇格し、警防課へ新たに消防団係を設ける。市町合併に伴い管内が拡大されたことにより、それに対応する消防指令センターの改修を行い、同日運用開始。

平成17年11月29日 初代霧島市長に前田終止氏就任。

平成17年12月31日 消防吏員1名が早期退職し実人員166名となる。

平成18年 1月31日 救助工作車Ⅱ型を購入、中央消防署へ配置、従来の救助工作車Ⅱ型（平成13年購入）を溝辺分遣所へ配置。

平成18年 3月25日 2B型高規格対応救急車を購入、隼人分遣所へ配置、従来の救急車を（平成13年度購入）を溝辺分遣所へ配置。

平成18年 3月31日 消防吏員9名退職。（定年退職2名、早期退職7名）

平成18年 4月 1日 消防吏員17名を採用、新たに市職員2名を加え、実人員176名となる。

平成18年 5月 9日 消防吏員1名が退職し、実人員175名となる。

平成18年10月31日 消防局長 中馬達己氏退任（霧島市社会福祉協議会へ）

平成18年11月 1日 消防局長 中村昭氏就任する。（霧島市福山総合支所長より）

平成19年 3月31日 消防吏員6名定年退職。

平成19年 4月 1日 消防吏員7名を採用（欠員補充）し、実人員176名となる。

平成19年 4月 3日 無線中継車を配置（鎌田建設グループより寄贈）

平成19年 4月 3日 消防団連絡車を配置（鎌田建設グループより寄贈）

平成19年 4月 5日 隼人分遣所新庁舎へ移転する。

平成19年12月14日 高規格救急車を購入、溝辺分遣所へ配置。

平成19年12月14日 高規格救急車を購入、横川分遣所へ配置。

平成20年 3月31日 消防吏員8名退職（定年退職6名、早期退職2名）

平成20年 4月 1日 消防吏員8名を採用（欠員補充）し、実人員176名となる。

平成20年 9月27日 静岡県, 谷津氏より救助資材寄贈。
 平成20年10月22日 出向職員1名本庁へ, 実人員175名となる。
 平成20年12月15日 北消防署梯子車(昭和63年購入)オーバーホール(第2回目)
 平成21年 1月15日 高規格救急車を購入, 中央署へ配置。
 平成21年 3月13日 消防吏員1名退職し, 実人員174名となる。
 平成21年 3月31日 消防吏員2名退職。(定年退職1名, 早期退職1名)
 平成21年 3月31日 消防局長 中村昭氏定年退職。
 平成21年 4月 1日 消防局長 後庵博文氏就任。(中央署長より)
 平成21年 4月 1日 消防吏員1名を採用(欠員補充)し, 実人員172名となる。
 平成21年 5月 1日 消防吏員3名を採用(欠員補充)し, 実人員175名となる。
 平成21年 6月30日 指揮隊車を配置(松山氏より寄贈)
 平成21年 9月30日 消防吏員2名退職し, 実人員173名となる。
 平成21年10月20日 北消防署新庁舎へ移転する。
 平成21年12月14日 中央消防署梯子車(平成7年購入)オーバーホール(第2回目)
 平成21年12月31日 消防吏員1名退職し, 実人員172名となる。
 平成22年 3月31日 消防吏員9名退職(定年5名, 早期退職4名)
 平成22年 3月31日 横川分遣所のタンク車をポンプ車へ更新(CD-I)
 平成22年 3月31日 中央消防署のタンク車を更新(水-II)
 平成22年 4月 1日 消防吏員13名を採用(欠員補充)し, 実人員176名となる。
 平成22年11月26日 統合型位置情報通知装置設置を行う。
 平成22年12月14日 中央消防署高規格救急車を更新。
 平成23年 2月28日 消防吏員1名退職し, 実人員175名となる。
 平成23年 3月14日 東日本大震災(3/11)に伴い, 緊急援助隊 2隊7名を派遣する。
 平成23年 3月29日 横川分遣所の改修を行い, 落成。
 平成23年 3月30日 隼人分遣所のタンク車を更新(水I-A)
 平成23年 3月31日 消防吏員6名退職(定年6名)
 平成23年 3月31日 消防局長 後庵博文氏定年退職。
 平成23年 4月 1日 消防局長 田中義春氏就任。(消防局総務課長より)
 平成23年 4月 1日 消防吏員6名を採用(欠員補充)し, 実人員175名となる。
 平成23年 5月26日 鹿児島県防災訓練が牧園町霧島高原国民休養地及び周辺地域で実施される。
 平成23年 8月26日 国分隼人ライオンズクラブ(結成50周年)より査察車(トヨタサクシード)の寄贈を受け本部に配置。
 平成23年 9月 1日 職員条例定数を改正, 定数を176名から181名とする。
 消防吏員5名を採用し, 実人員180名となる。
 平成23年 9月30日 消防吏員1名退職し, 実人員179名となる。
 平成24年 2月23日 溝辺分遣所のタンク車を更新(水-II)
 平成24年 3月26日 福山分遣所のポンプ車を更新(CD-I)
 平成24年 3月28日 北署のポンプ車を更新(CD-I)
 平成24年 3月31日 消防吏員6名退職(定年退職2名, 早期退職4名)
 平成24年 4月 1日 消防吏員7名を採用(欠員補充)し, 実人員180名となる。
 平成24年 8月 2日 消防吏員1名が退職し, 実人員179名となる
 平成25年 1月31日 中央署の査察車を廃車

平成25年 2月20日 北署の救急車を更新
 平成25年 3月 5日 北署の梯子車を更新（先端屈折式35m級梯子車）
 平成25年 3月18日 中央署のポンプ車を更新（CD-I）
 平成25年 3月21日 霧島分遣所のタンク車を更新（水I-A）
 平成25年 3月31日 消防吏員7名退職（定年退職3名，早期退職4名）
 平成25年 3月31日 消防局長 田中義春氏定年退職
 平成25年 4月 1日 消防局長 塚田修二氏就任（中央署長より）
 平成25年 4月 1日 消防吏員9名採用（欠員補充）し，実人員181名となる。
 平成25年11月25日 自治体消防65周年消防団120周年記念事業（東京）
 平成25年12月20日 中央署，霧島分遣所の高規格救急車を更新
 平成26年 1月30日 北署のタンク車を更新（水I-A）
 平成26年 2月25日 総務省消防庁より緊急消防援助隊用車両として機動連絡車配備
 平成26年 3月31日 消防局長 塚田修二氏定年退職
 平成26年 4月 1日 消防局長 木佐貫誠氏就任（消防局次長より）
 平成26年 4月 1日 市長部局総務部安心安全課に職員1名出向
 平成26年 4月 1日 消防吏員2名採用（欠員補充）し，実人員181名となる。
 平成26年12月 8日 中央署の梯子車（平成7年38m級）を40m級梯子車に更新
 平成27年 3月31日 消防吏員2名定年退職
 平成27年 4月 1日 消防吏員2名採用（欠員補充）し，実人員181名となる。
 平成27年 5月31日 消防吏員2名が退職し179名となる。
 平成27年12月 4日 隼人分遣所の高規格救急車を更新（浜田医院より補助）横川分遣所
 の高規格救急車を更新（平和リース株式会社より補助）
 平成27年12月15日 消防吏員1名が退職し178名となる。
 平成28年 3月31日 消防吏員5名退職し，（定年退職4名，普通退職1名）173名と
 なる。
 平成28年 3月31日 消防局長 木佐貫誠氏定年退職
 平成28年 4月 1日 消防局長 馬場勝芳氏就任（霧島市農林水産部長より）
 平成28年 4月 1日 消防吏員7名採用（欠員補充）し，実人員180名となる。
 平成28年 4月 1日 消防救急デジタル無線運用開始及び高機能消防指令システム更新
 平成28年 4月14日 熊本地震（4/14前震・4/16本震）に伴い緊急消防援助隊3隊22名
 を派遣する。
 平成28年12月 2日 中央署の高規格救急車（救急3）を更新
 平成28年12月20日 後方支援車（マイクロバス）を更新
 平成29年 3月31日 消防吏員1名が退職し，（定年退職1名）179名となる。
 平成29年 4月 1日 消防吏員2名採用（欠員補充）し，実人員181名となる。
 平成29年12月 1日 溝辺分遣所の高規格救急車を更新
 平成29年12月13日 溝辺分遣所の救助工作車を更新
 平成29年12月19日 消防吏員1名が退職し180名となる。
 平成30年 3月31日 消防吏員1名が退職し179名となる。
 平成30年 3月31日 消防局長 馬場勝芳氏定年退職
 平成30年 4月 1日 消防局長 久保隆義氏就任（市民環境部長より）
 平成30年 4月 1日 消防吏員2名を採用（欠員補充）及び事務吏員が1名減となり，
 180名となる。

平成30年12月31日 消防吏員1名が退職し179名となる。
平成31年 2月 8日 北署の指揮車を更新
平成31年 2月22日 総務連絡車を更新
平成31年 3月 1日 資機材搬送車を更新
平成31年 3月31日 消防吏員1名が退職し178名となる。
平成31年 3月31日 消防局長 久保隆義氏定年退職

4. 消防局の発足経過

(イ) 消防局の発足経過

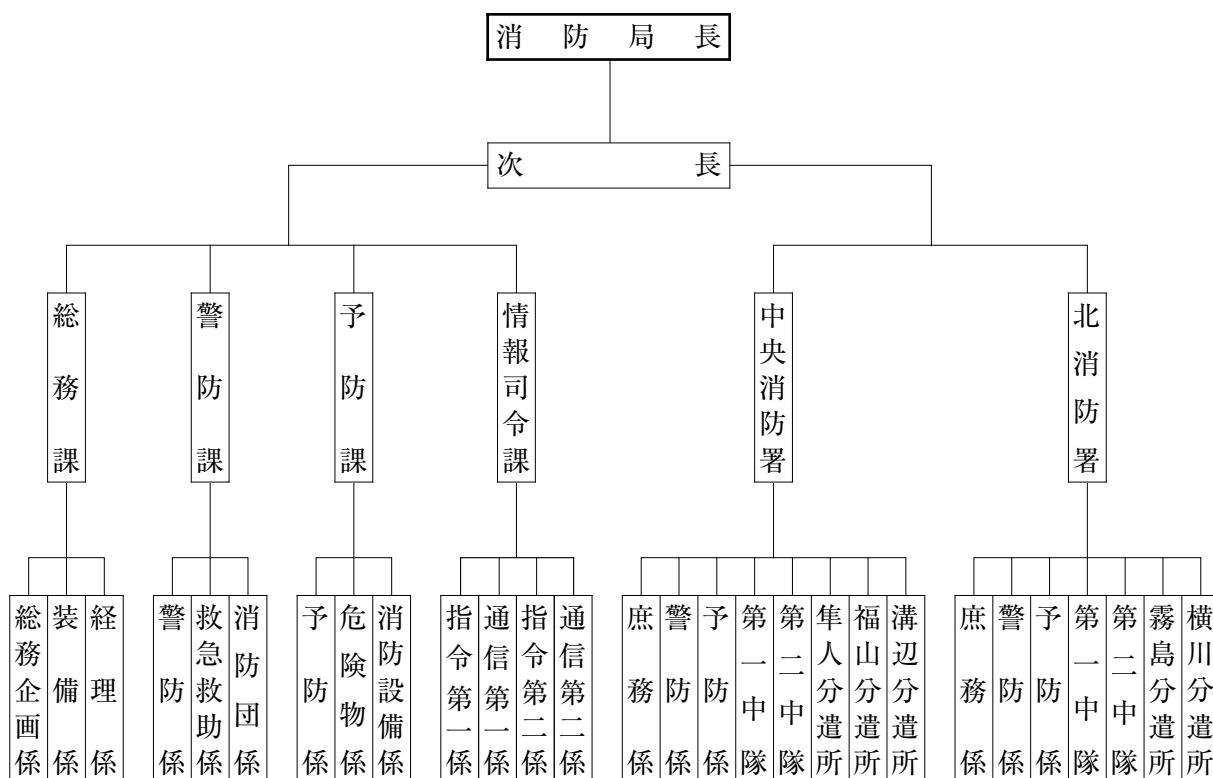
設立年月日	名 称	構 成 市 町	本部署所の設置場所	開設年月日
昭和32年 6月1日	国分市消防本部	国分市	国分市向花 1551	昭和 32 年 6 月 1 日
昭和44年 4月1日	国分市・隼人町 消防組合	国分市・隼人町	隼人分遣所 隼人町内 1333 番地 5	昭和 44 年 5 月 1 日
昭和45年 5月29日	国分市・隼人町 消防組合	国分市・隼人町	消防本部（署）新庁舎 落成移転 国分市向花 862	昭和 45 年 6 月 17 日
昭和46年 4月1日	国分市外 2 町消防 組合	国分市・隼人町 霧島町	霧島分遣所 霧島町田口 495 番地	昭和 47 年 4 月 16 日
昭和47年 10月1日	国分市外 3 町消防 組合	国分市・隼人町 霧島町・牧園町	牧園分遣所 牧園町高千穂小谷 3282 番地 16	昭和 48 年 4 月 10 日
昭和48年 4月1日	国分市外 4 町消防 組合	国分市・隼人町 霧島町・牧園町 福山町	福山分遣所 福山町福山 5342 番地 4	昭和 49 年 9 月 3 日
昭和48年 9月1日	牧園分遣所を北消防署に組織変更する。			
昭和49年 4月1日	国分地区消防組合に名称変更する。			
昭和62年 12月1日	住居表示の改正に伴い、国分市向花862を国分市中央五丁目3番10号に変更			
平成11年 4月20日	新庁舎落成に伴い、国分市向花1291番地1に移転する。			
平成17年 11月7日	市町合併に伴い国分地区消防組合を解散し、霧島市消防局に名称変更する。 国分市向花1291番地1を霧島市国分中央三丁目41番5号に変更			

(ロ) 消防庁舎の概要

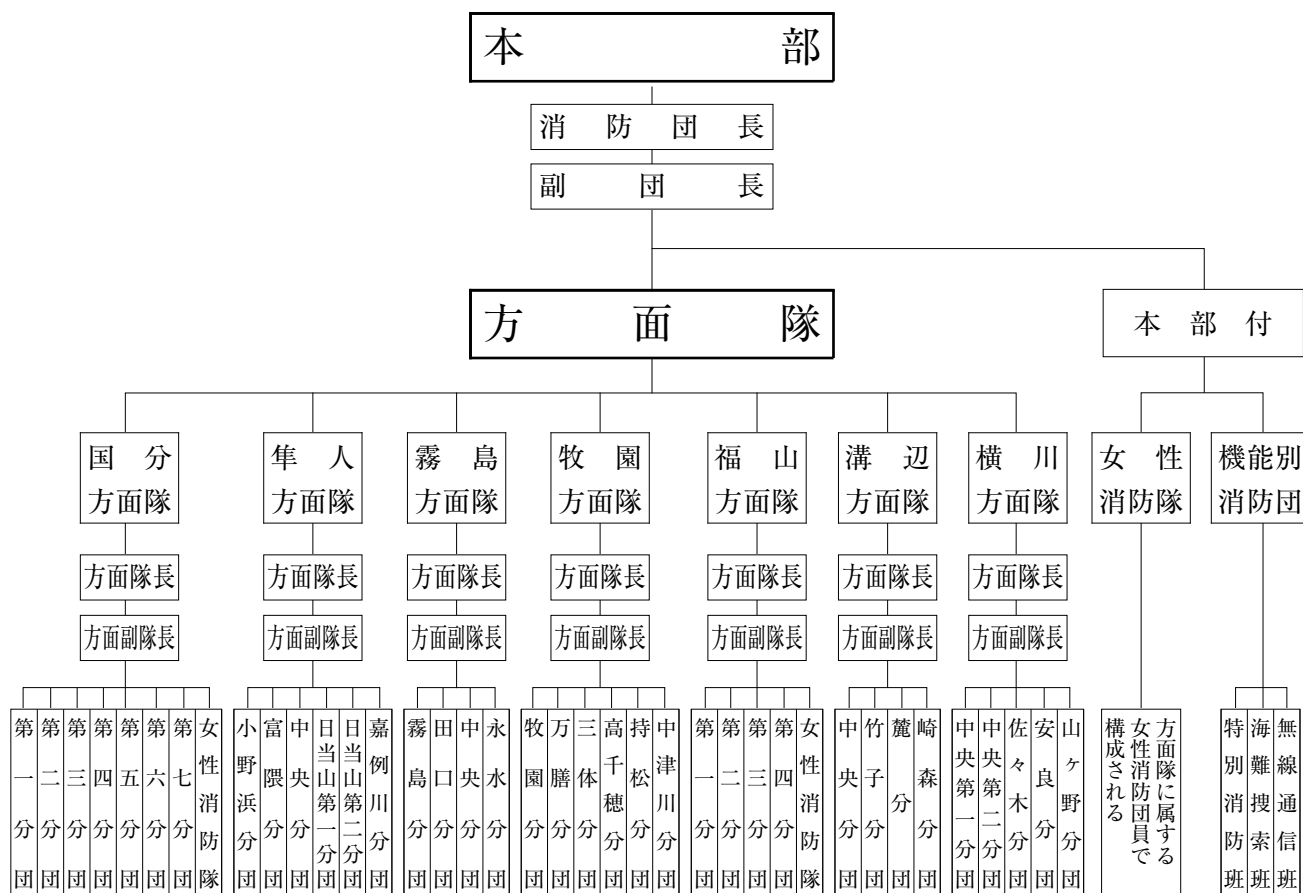
種別	区分	所 在 地	構 造	敷地面積	延床面積	建築面積
消 防 本 部		霧島市国分中央三丁目41番5号	鉄筋コンクリート 4階建（庁舎） 鉄筋コンクリート 6階建（訓練塔）	10,497.00㎡ (避難地駐車場を含む)	4,132.63㎡	1,477.45㎡
中 央 消 防 署 管 轄	中 央 署	霧島市国分中央三丁目41番5号(消防本部に併置)	鉄筋コンクリート 4階建て	10,497.00㎡ (避難地駐車場を含む)	4,132.63㎡	1,477.45㎡
	隼人分遣所	霧島市隼人町西光寺119番地1	鉄筋コンクリート 平屋建て	3,818.98㎡	439.00㎡	463.50㎡
	福山分遣所	霧島市福山町福山5342番地4	鉄筋コンクリート 平屋建て	401.08㎡	176.13㎡	184.55㎡
	溝辺分遣所	霧島市溝辺町麓1616番地39	鉄筋コンクリート 平屋建て(訓練塔含む)	3,718.58㎡	429.40㎡	377.98㎡
北 消 防 署 管 轄	北 署	霧島市牧園町高千穂3855番地122	鉄筋コンクリート 2階建て (車庫棟・訓練塔含む)	8,442.00㎡	1,917.23㎡	1,065.93㎡
	霧島分遣所	霧島市霧島田口495番地	鉄筋コンクリート 平屋建て	880.87㎡	197.65㎡	197.65㎡
	横川分遣所	霧島市横川町上ノ3414番地1	鉄筋コンクリート 平屋建て	2,258.00㎡	233.00㎡	235.00㎡

5. 消防局の組織

平成 31. 3. 31 現在



6. 消防団の組織



7. 消防局財政

(イ) 市予算と消防予算

(単位：千円)

区 分	平成30年度当初 予 算 額
市 一 般 会 計	55,810,000
消 防 費 (水防防災費・災 害対策費は除く)	1,670,225
比 率	2.99%

(ロ) 消防費の内訳

(単位：千円)

区 分	平成30年度当初 予 算 額
常 備 消 防 費	1,371,340
非 常 備 消 防 費	214,706
消 防 施 設 費	84,209
計	1,670,225

(ハ) 消防費と人口の比率

(単位：円)

区 分	消 防 費	1 世 帯 当 たり (60,611世帯)	1 人 当 たり (125,771名)
予 算 額	1,670,225,000	27,556	13,280

8. 消防相互応援協定締結状況

協 定 先 の 市 町	協 定 の 内 容	締 結 年 月 日
○鹿児島県	鹿児島県消防相互応援協定	平成18年11月 1日
○鹿児島県	県消防・防災ヘリコプターに関する応援協定	平成10年 6月26日
○鹿児島空港	消火救難活動に関する協定	平成17年11月 7日
○霧島警察署	非常災害相互応援協定	平成18年10月 1日
○横川警察署	非常災害相互応援協定	平成17年11月 7日
○大隅曾於地区消防組合	東九州自動車道における消防相互応援協定	平成17年11月 7日
○始良市消防本部	隼人道路における消防相互応援協定	平成22年 3月23日
○始良市消防本部	消防相互応援協定	平成22年 3月23日
○永井クレーン工業株式会社	災害（事故）発生時における救援作業要請	平成17年12月 1日
○伊佐湧水消防組合	消防相互応援協定	平成21年 2月 1日
○垂水市消防本部	消防相互応援協定	平成17年12月 1日
○大隅曾於地区消防組合	消防相互応援協定	平成17年12月 1日
○都城市	消防・救急業務相互応援協定	平成18年 1月 1日
○宮崎県西諸広域行政事務組合	消防相互応援協定	平成17年12月 1日
○離島市町村・消防組合 中種子町，西之表市，伊仙町， 三島村，徳之島町，天城町 南種子町，十島村 和泊町，知名町，与論町 大島地区消防組合 屋久島町	救急業務応援協定	平成17年12月27日 平成18年 1月10日 平成18年 1月20日 平成18年 2月28日 平成19年10月 1日
○さつま町消防本部	消防相互応援協定	平成18年 2月 1日
○鹿児島県ドクターヘリ運航範囲 市町村31市町村	鹿児島県ドクターヘリ運航事業における救急車搬送に関する相互応援協定	平成23年12月22日
○有限会社池上クレーン	災害（事故）発生時における救護作業要請	平成26年 2月10日
○大隅肝属地区消防組合	消防・救急業務相互応援協定	平成27年 7月13日